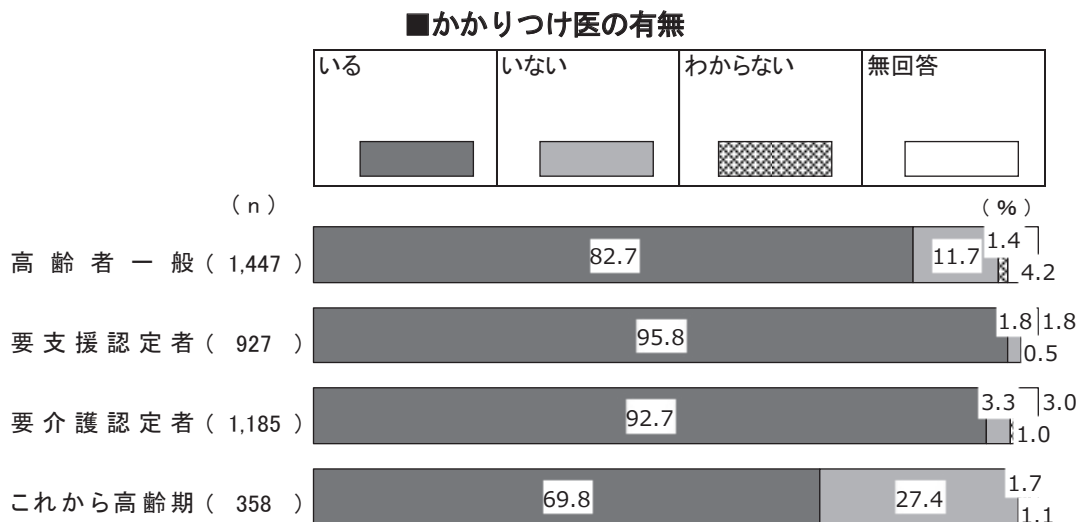


4 医療・在宅療養

(1) かかりつけ医等の状況

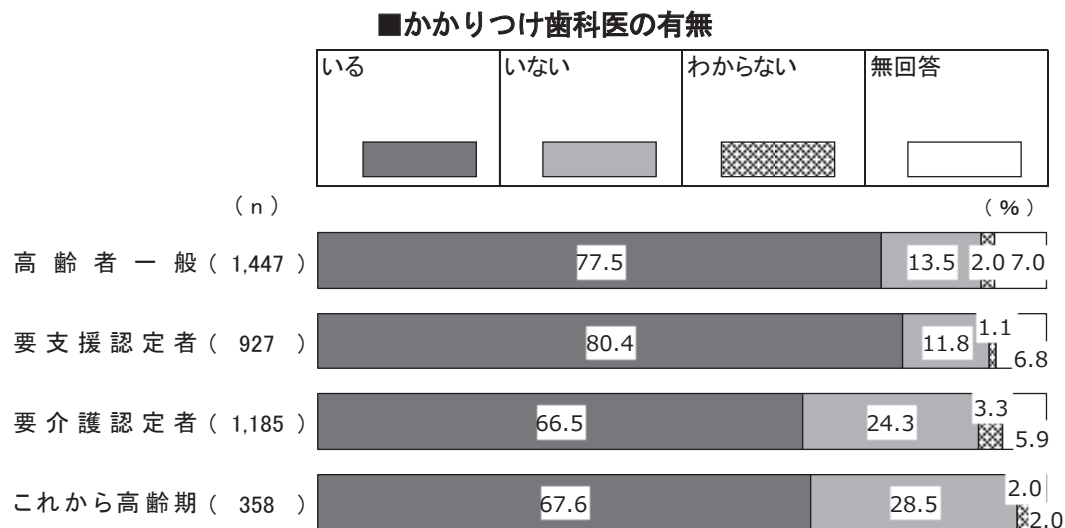
① かかりつけ医の有無

○かかりつけ医が「いる」人は、高齢者一般では 82.7%、要支援認定者では 95.8%、要介護認定者では 92.7%、これから高齢期では 69.8%となっている。



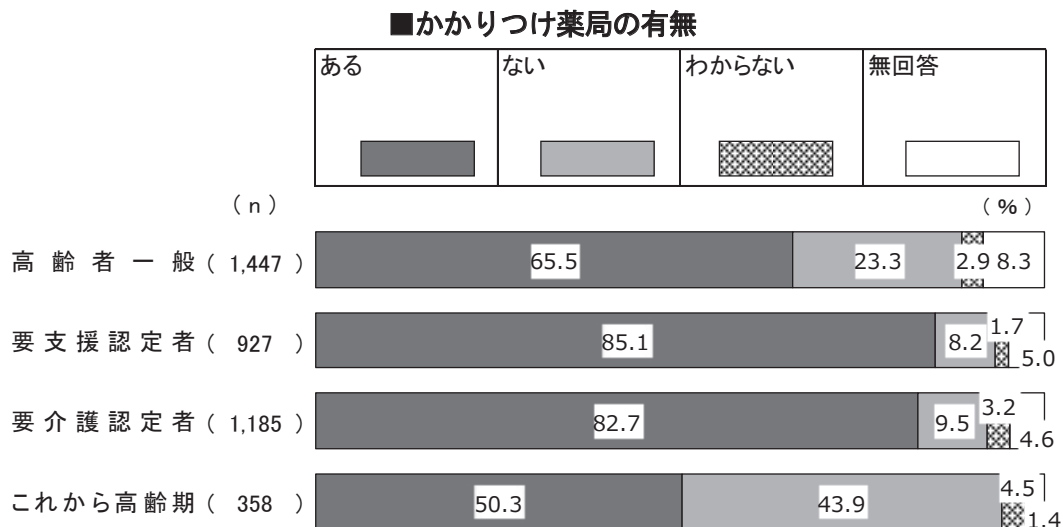
② かかりつけ歯科医の有無

○かかりつけ歯科医が「いる」人は、高齢者一般では 77.5%、要支援認定者では 80.4%、要介護認定者では 66.5%、これから高齢期では 67.6%となっている。



③ かかりつけ薬局の有無

○かかりつけ薬局が「ある」人は、高齢者一般で 65.5%、要支援認定者で 85.1%、要介護認定者で 82.7%、これから高齢期で 50.3%となっている。

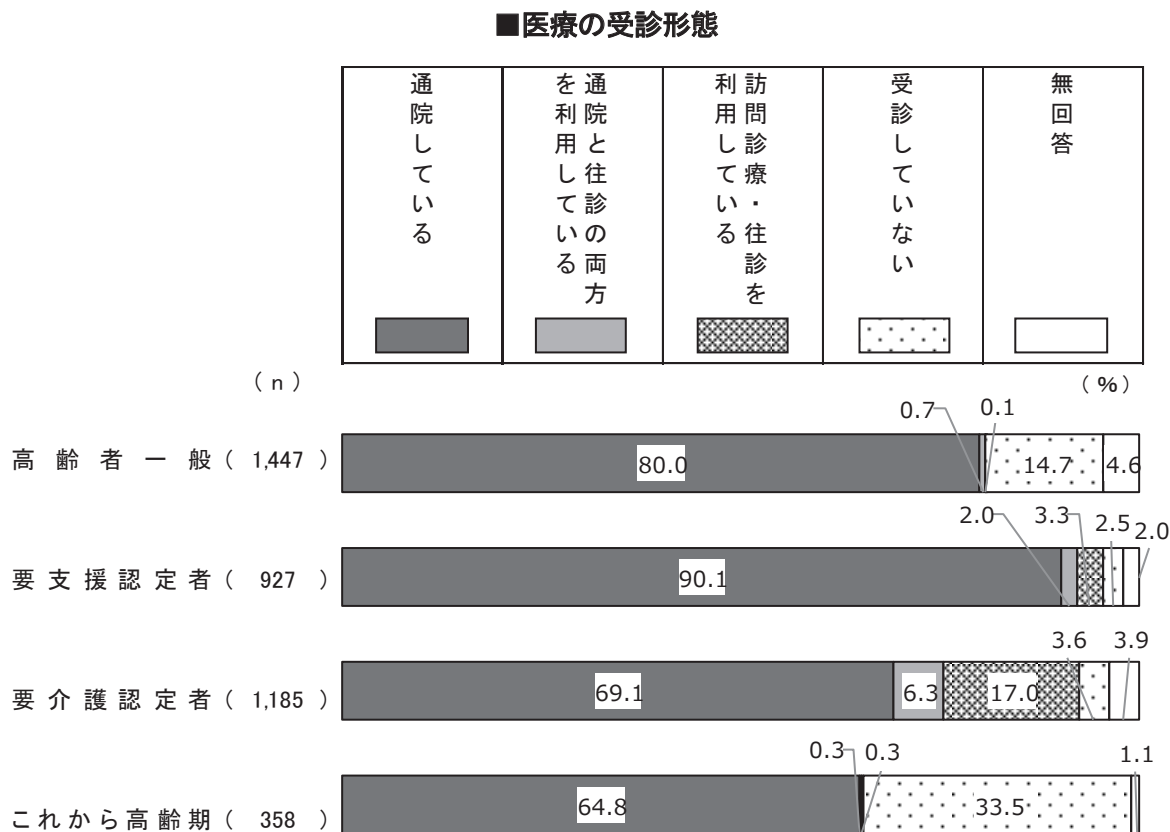


(2) 医療の受診状況

① 医療の受診形態

○「通院している」「通院と往診の両方を利用している」「訪問診療・往診を利用している」と回答した“何らかの方法で医療を受診している”人は、高齢者一般で約8割、要支援認定者で9割半ば、要介護認定者で9割超、これから高齢期で6割半ばとなっている。

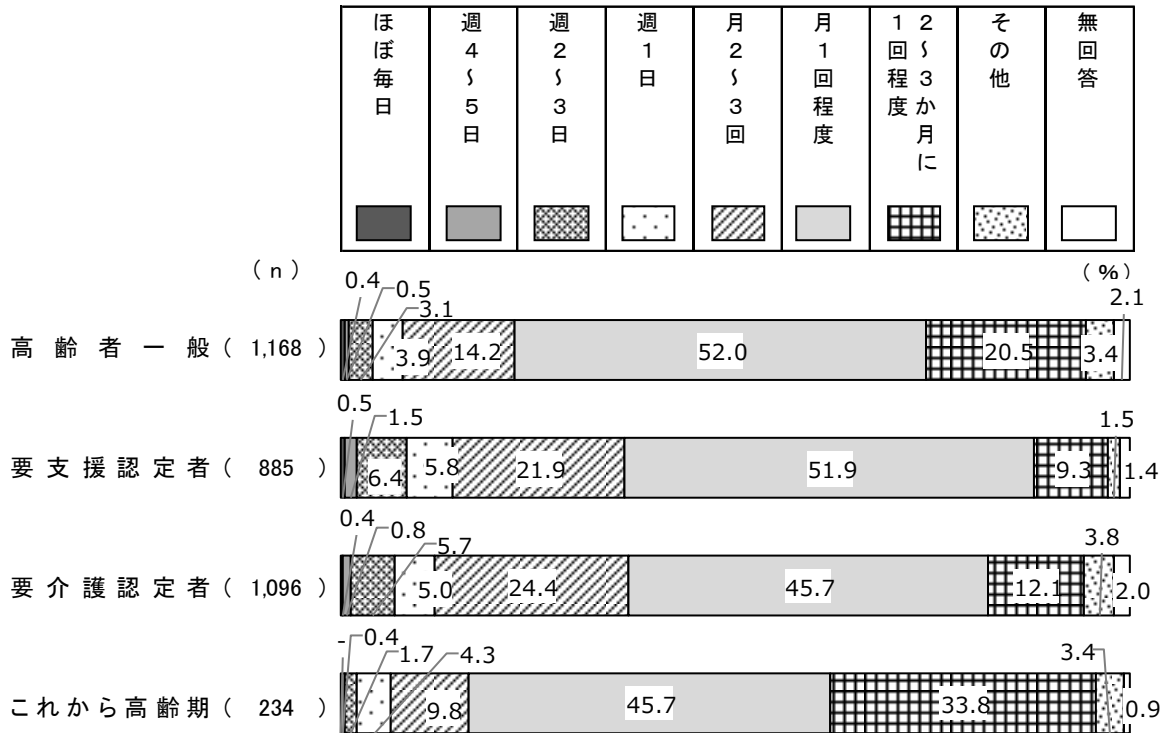
○「受診していない」は、高齢者一般で1割半ば、これから高齢期で3割超となっている。



② 医療機関の受診頻度

○ “何らかの方法で医療を受診している” 人の医療機関の受診頻度は、いずれの調査においても、「月1回程度」が最も高く、「月2～3回」と回答した人も含めると、「月1～3回」が5割半ばから7割超となっている。

■ 医療機関の受診頻度

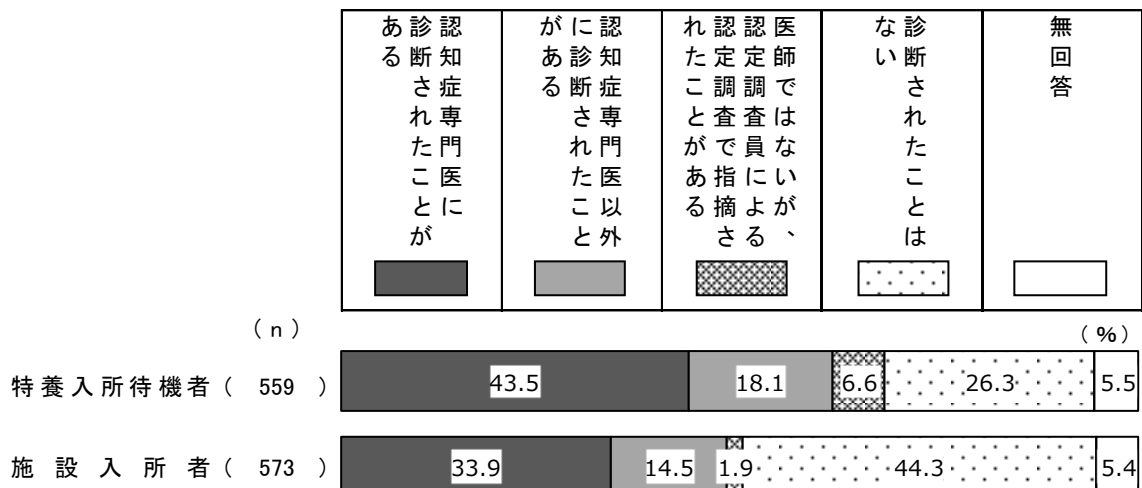


(3) 認知症の診断状況

○ 特養入所待機者では、「認知症専門医に診断されたことがある」が43.5%、「認知症専門医以外に診断されたことがある」が18.1%、「医師ではないが、認定調査員による認定調査で指摘されたことがある」が6.6%、「診断されたことはない」が26.3%となっている。

○ 施設入所者では、「認知症専門医に診断されたことがある」が33.9%、「認知症専門医以外に診断されたことがある」が14.5%、「医師ではないが、認定調査員による認定調査で指摘されたことがある」が1.9%、「診断されたことはない」が44.3%となっている。

■ 認知症の診断状況

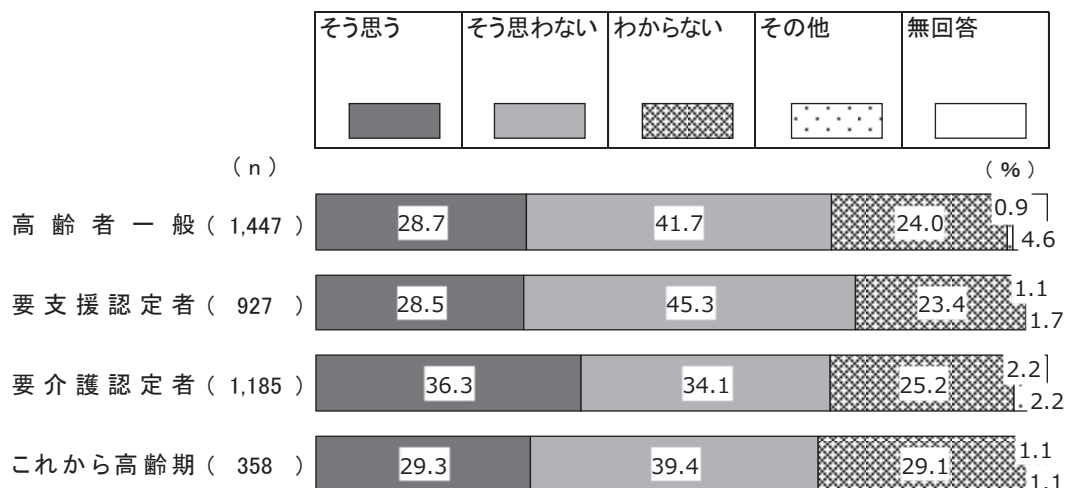


(4) 在宅療養

① 在宅療養の希望

○脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいかどうか聞いたところ、高齢者一般、要支援認定者、これから高齢期では「そう思わない（在宅療養したくない）」が「そう思う（在宅療養したい）」を上回っている。要介護認定者では、「そう思う」（36.3%）と「そう思わない」（34.1%）が同程度となっている。

■在宅療養の希望



【経年比較】

○平成28年度の調査結果と比較しても、差はみられない。

■在宅療養の希望

<要支援認定者：経年比較>

	n	そう思う	そう思わない	わからない	その他	無回答
令和元年度	927	28.5	45.3	23.4	1.1	1.7
平成28年度	895	29.2	41.1	25.9	1.6	2.2

<要介護認定者：経年比較>

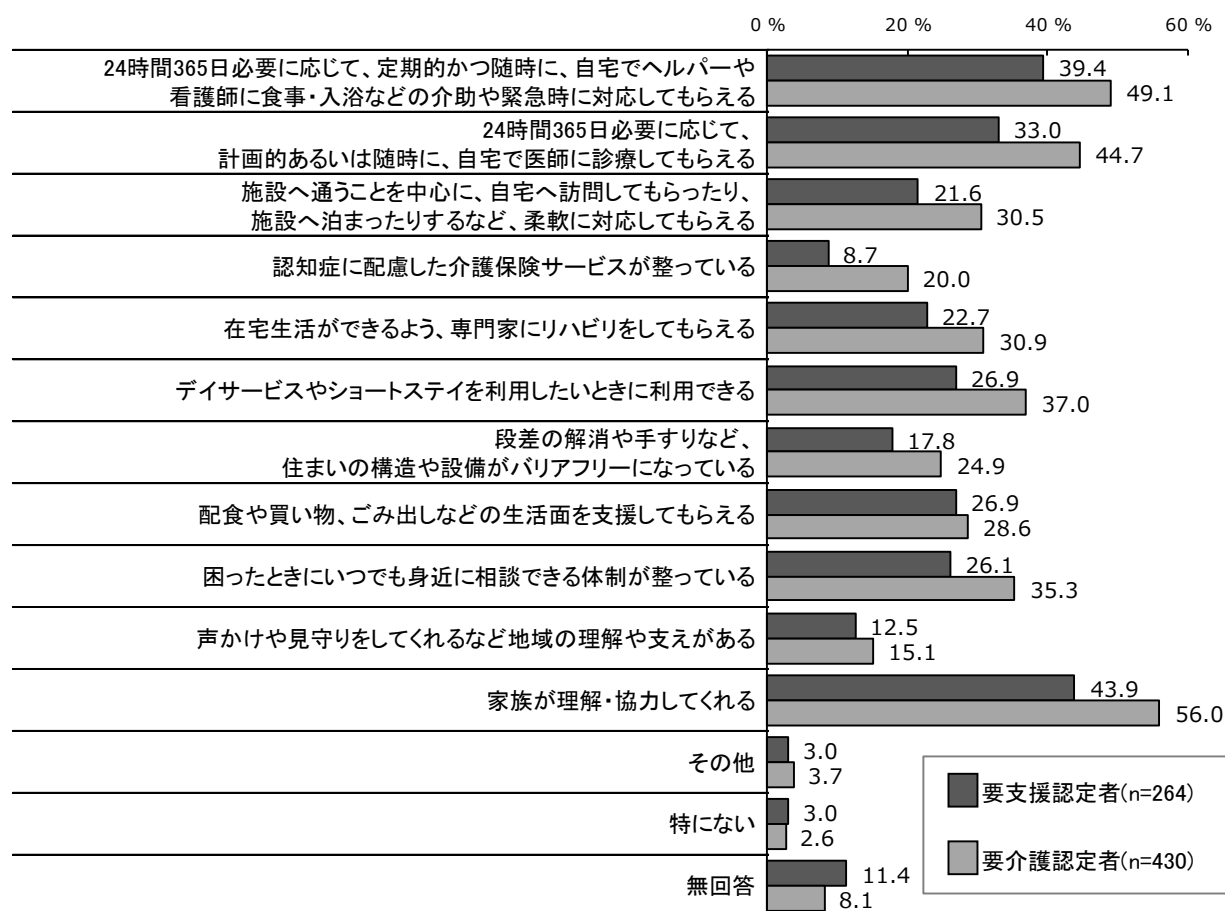
	n	そう思う	そう思わない	わからない	その他	無回答
令和元年度	1,185	36.3	34.1	25.2	2.2	2.2
平成28年度	1,578	34.8	33.0	28.5	1.4	2.3

② 在宅療養生活を継続するために必要なこと

○在宅療養の希望で「そう思う（在宅療養したい）」と回答した人の在宅療養生活を継続するために必要なことは、要支援認定者では「家族が理解・協力してくれる」（43.9%）、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」（39.4%）、「24時間365日必要に応じて、計画的あるいは随時に、自宅で医師に診療してもらえる」（33.0%）が上位に挙がっている。

○要介護認定者では、「家族が理解・協力してくれる」（56.0%）、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」（49.1%）、「24時間365日必要に応じて、計画的あるいは随時に、自宅で医師に診療してもらえる」（44.7%）が上位に挙がっている。

■在宅療養生活を継続するために必要なこと（複数回答）

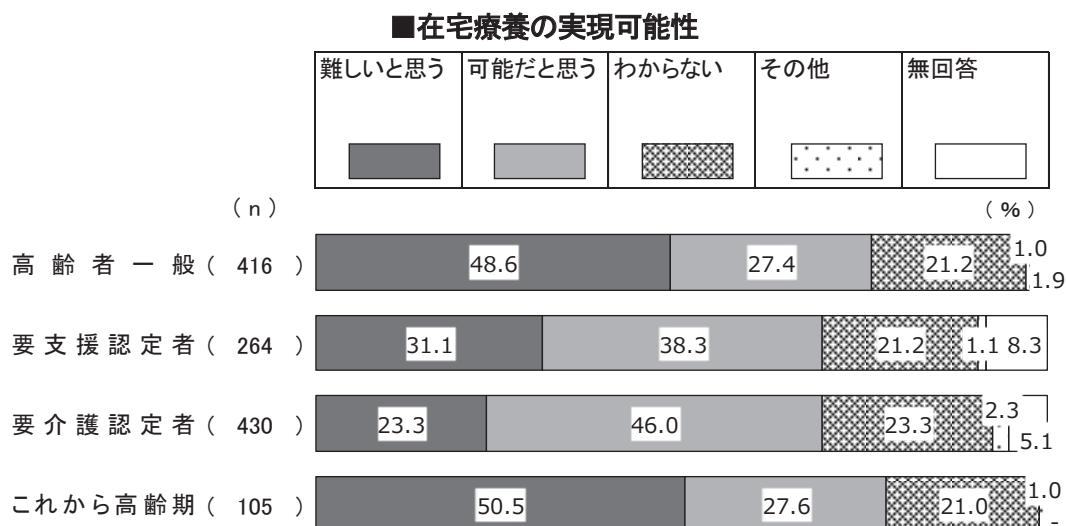


③ 在宅療養の実現可能性

○在宅療養の希望で「そう思う（在宅療養したい）」と回答した人の在宅療養の実現可能性は、高齢者一般、これから高齢期ともに「難しいと思う」が「可能だと思う」を上回っている。

○要支援認定者では、「可能だと思う」（38.3%）が「難しいと思う」（31.1%）を上回っている。

○要介護認定者では、「可能だと思う」（46.0%）が「難しいと思う」（23.3%）を上回っている。



【経年比較】

○平成28年度の調査結果と比較しても、差はみられない。

■在宅療養の実現可能性

<要支援認定者：経年比較>

	n	難しいと思う (%)	可能だと思う (%)	わからない (%)	その他 (%)	無回答 (%)
令和元年度	264	31.1	38.3	21.2	1.1	8.3
平成28年度	261	31.4	35.6	25.3	0.8	6.9

<要介護認定者：経年比較>

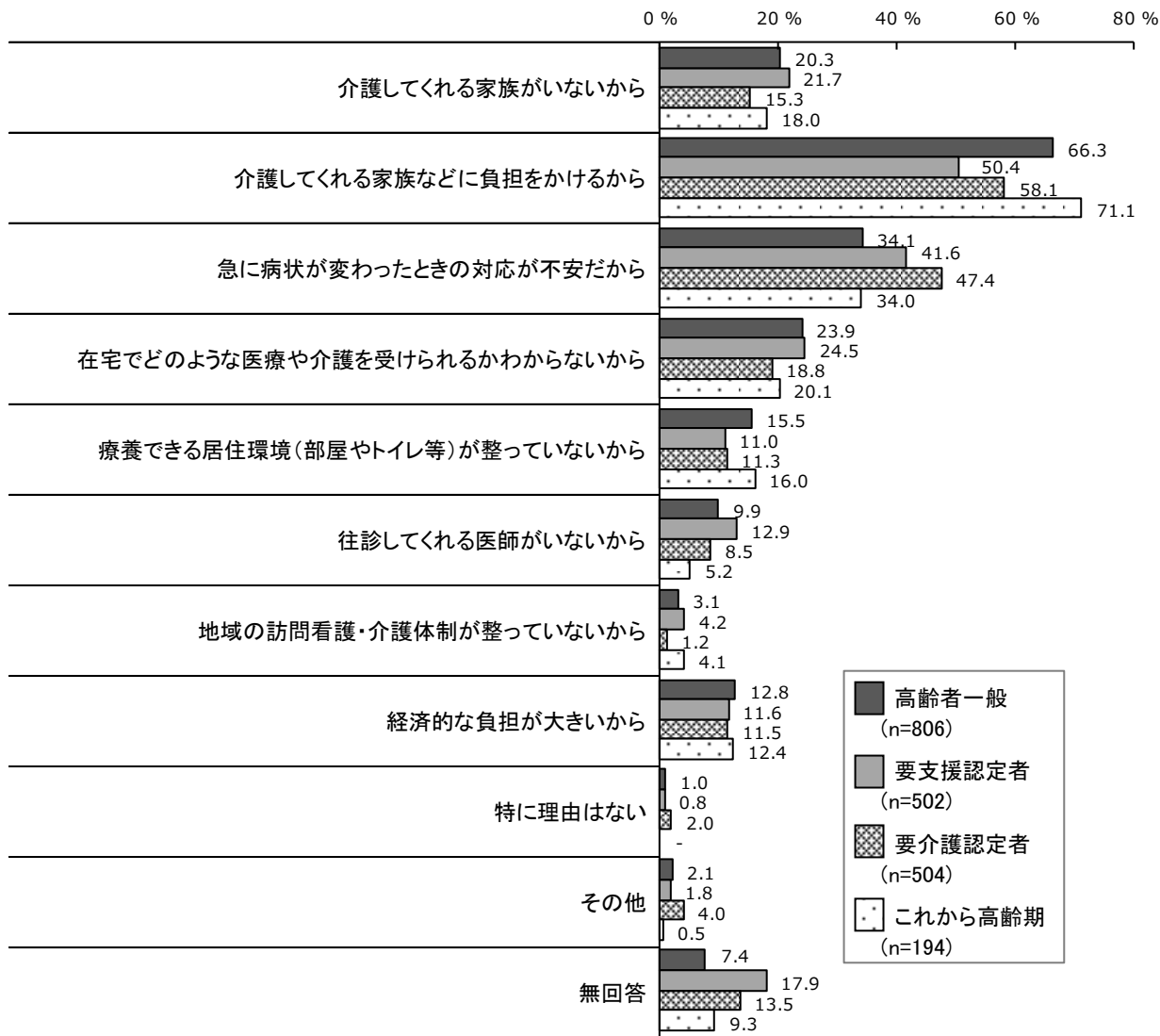
	n	難しいと思う (%)	可能だと思う (%)	わからない (%)	その他 (%)	無回答 (%)
令和元年度	430	23.3	46.0	23.3	2.3	5.1
平成28年度	549	27.5	45.0	17.3	0.7	9.5

④ 在宅療養が難しいと思う理由

○在宅療養の希望で「そう思わない（在宅療養したくない）」あるいは在宅療養の実現が「難しいと思う」と回答した人の実現が難しい理由は、いずれの調査においても、「介護してくれる家族などに負担をかけるから」が最も高い。

○要介護認定者では、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が47.4%と高くなっている。

■在宅療養が難しいと思う理由（○は3つまで）

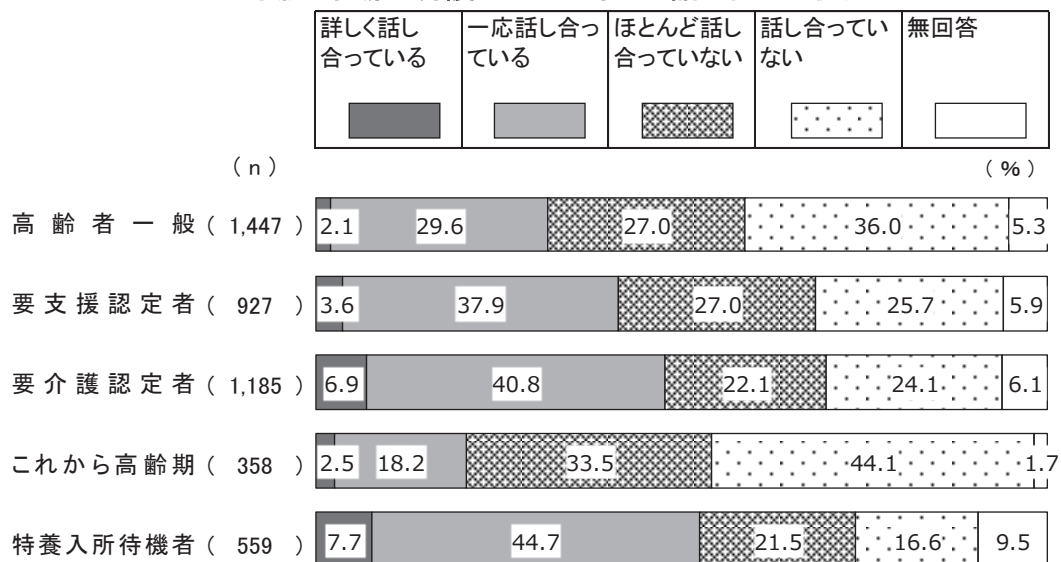


(5) 人生の最終段階における医療・ケア

① 家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況

○人生の最終段階における受けたい医療・介護、受けたくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っているか聞いたところ、“話し合っている”（「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の合計）は、高齢者一般で3割超、要支援認定者で4割超、要介護認定者で5割近く、これから高齢期で約2割、特養入所待機者で5割超となっており、要介護認定を受けている人や施設入所の必要性がある人は話し合う傾向がみられる。

■家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況



【高齢者一般】

○年代別にみると、『後期高齢者』は“話し合っている”が全体と比べて高い。

■家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況<高齢者一般：年代別>

	n	(%)					(計)	
		話し合っている	一応話し合っている	ほとんど話し合っていない	話し合っていない	無回答	話し合っている	話し合っていない
高齢者一般	1,447	2.1	29.6	27.0	36.0	5.3	31.7	63.0
前期高齢者(65-74歳)	583	1.7	25.4	26.4	43.2	3.3	27.1	69.6
後期高齢者(75歳以上)	786	2.3	33.7	26.8	30.9	6.2	36.0	57.8

【要支援・要介護認定者】

○年代別にみると、要支援認定者の『前期高齢者』は“話し合っている”が全体と比べて低い。

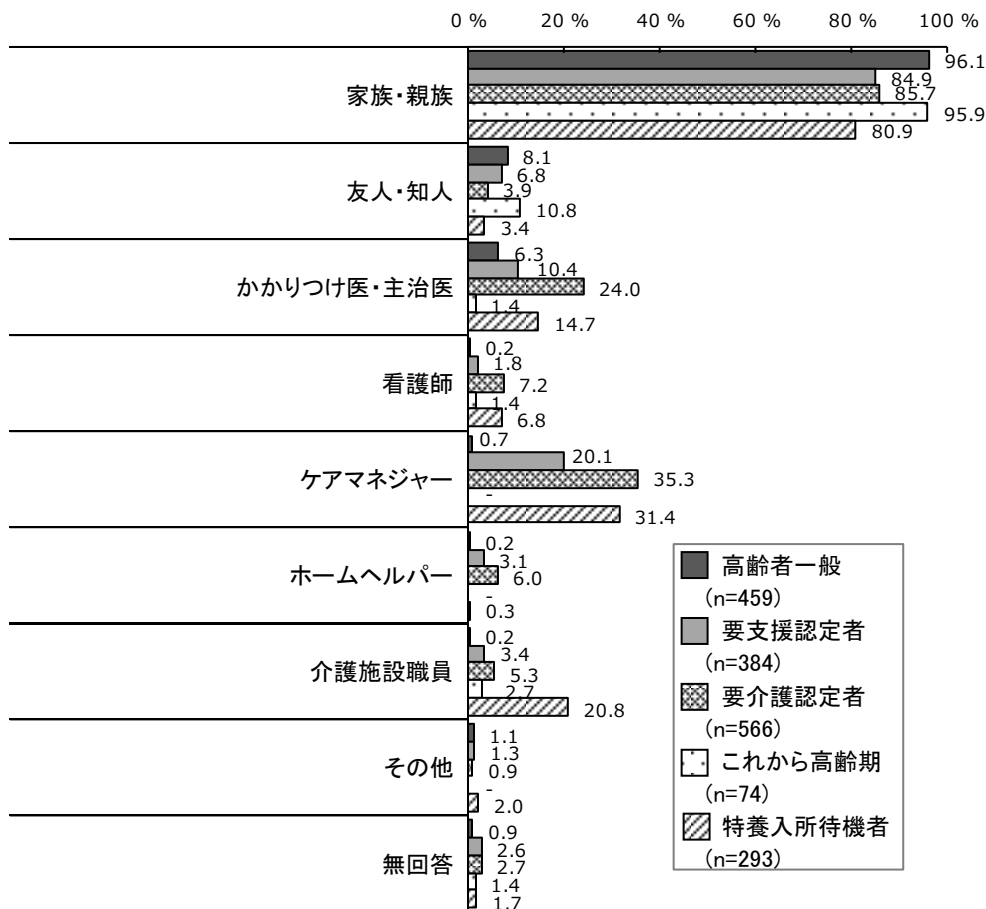
■家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況<要支援・要介護認定者：年代別>

	n	(%)					(計)	
		話し合っている	話し合っている	ほとんど合っていない	話し合っていない	無回答	話し合っている	話し合っていない
要支援認定者	927	3.6	37.9	27.0	25.7	5.9	41.4	52.6
前期高齢者(65-74歳)	92	4.3	26.1	30.4	33.7	5.4	30.4	64.1
後期高齢者(75歳以上)	797	3.6	38.9	26.5	25.0	6.0	42.5	51.4
要介護認定者	1,185	6.9	40.8	22.1	24.1	6.1	47.8	46.2
前期高齢者(65-74歳)	128	1.6	39.1	23.4	32.0	3.9	40.6	55.5
後期高齢者(75歳以上)	1,018	7.9	40.9	21.9	22.9	6.5	48.7	44.8

② 話し合っている相手

○“話し合っている”と回答した人の話し合っている相手は、いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、高齢者一般で96.1%、要支援認定者で84.9%、要介護認定者で85.7%、これから高齢期で95.9%、特養入所待機者で80.9%となっている。

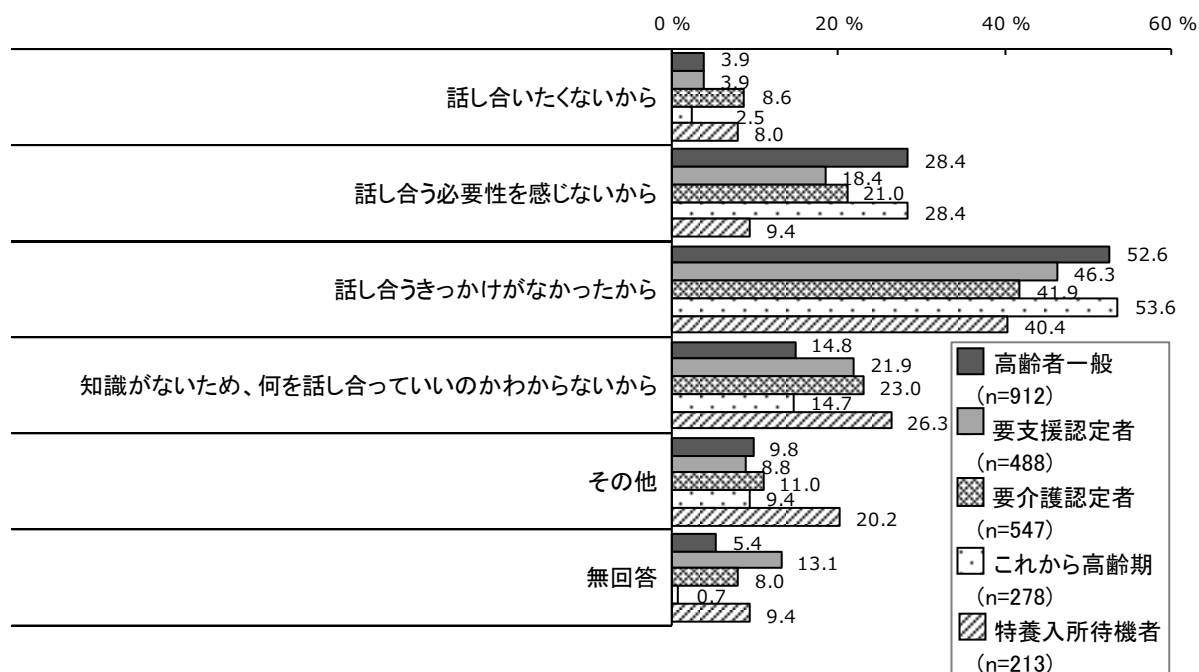
■話し合っている相手（複数回答）



③ 話し合ったことがない理由

○「ほとんど話し合っていない」「話し合っていない」と回答した人の話し合ったことがない理由は、いずれの調査でも「話し合うきっかけがなかったから」が最も高く、高齢者一般で52.6%、要支援認定者で46.3%、要介護認定者で41.9%、これから高齢期で53.6%、特養入所待機者で40.4%となっている。

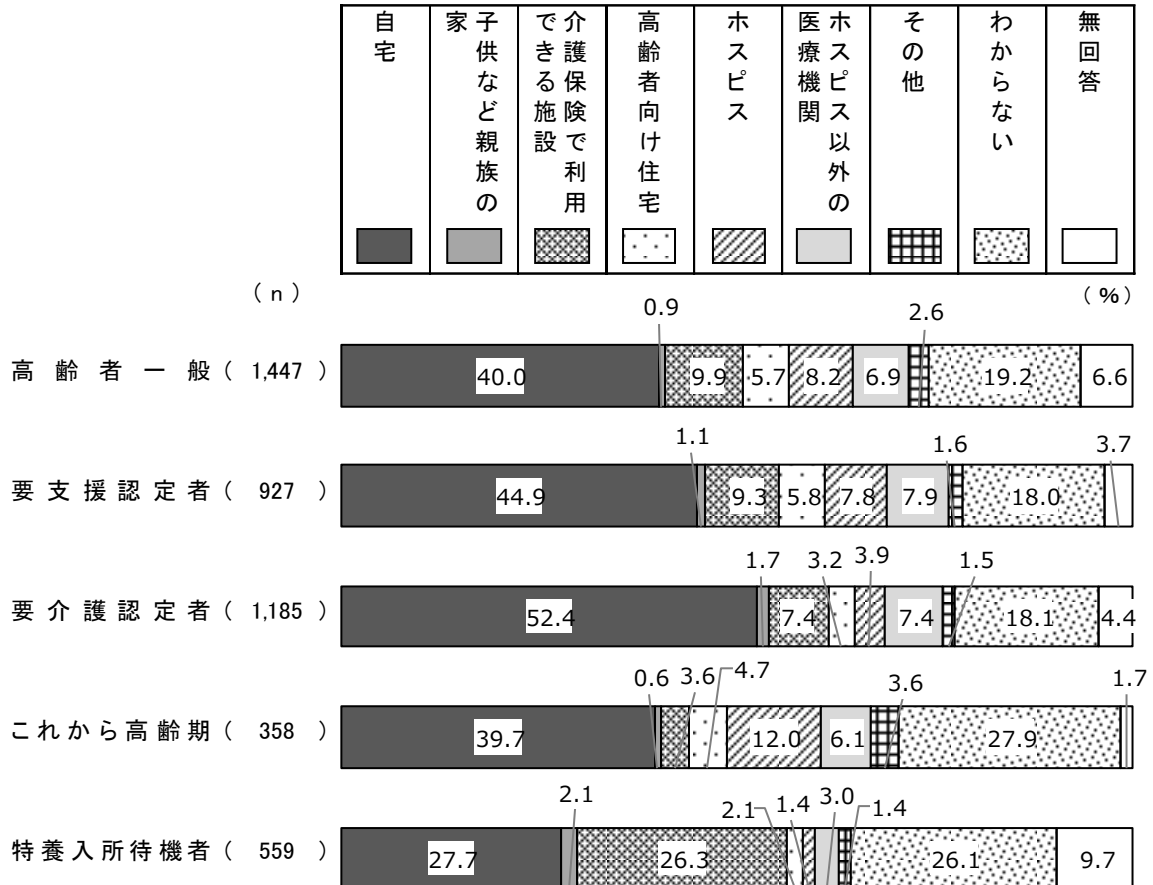
■話し合ったことがない理由（複数回答）



④ 人生の最期を迎えたい場所

- 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者、これから高齢期では、「自宅」が最も高く、それぞれ40.0%、44.9%、52.4%、39.7%となっている。
- 特養入所待機者では、「自宅」が27.7%、「介護保険で利用できる施設」が26.3%、「わからない」が26.1%で同程度となっている。

■人生の最期を迎えたい場所



【高齢者一般】

○世帯構成別にみると、『1人暮らし』は、「自宅」が約3割で全体と比べて低い。

■人生の最期を迎えたい場所<高齢者一般：世帯構成別>

	n	自宅	子供など親族の家	(介護保険施設で利用できる施設 （特別養護老人ホーム等）)	高齢者向け住宅	都市型・高齢者向け住宅	サ高住・有料老人ホーム等の	ホスピス（緩和ケア病棟）	ホスピス以外の医療機関	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,447	40.0	0.9	9.9	5.7	8.2	6.9	2.6	19.2	6.6		
1人暮らし	445	29.7	0.9	11.5	8.5	10.1	7.6	2.5	22.2	7.0		
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	397	46.9	-	8.8	4.8	8.3	5.8	1.5	18.1	5.8		
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	74	44.6	-	5.4	4.1	12.2	4.1	4.1	17.6	8.1		
子との2世帯	248	47.2	2.8	10.9	3.2	6.9	7.3	1.2	16.1	4.4		
その他	210	39.5	1.0	9.5	5.7	4.8	6.7	6.2	19.0	7.6		

⑤ 終末期・死後の手続等で不安なこと

- 高齢者一般では、「特にない」が40.3%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(24.4%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(22.7%)が上位に挙げられている。
- 要支援認定者では、「特にない」が39.6%となっている。不安なこととしては、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(26.6%)、「遺品整理」(24.7%)、「金融機関への連絡」(21.6%)が上位に挙げられている。
- 要介護認定者では、「特にない」が50.1%となっている。不安なこととしては、「葬儀に関すること」(18.8%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(16.9%)が上位に挙げられている。
- これから高齢期では、「特にない」が31.3%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(36.6%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(33.0%)、「お墓に関すること」(27.4%)が上位に挙げられている。
- 特養入所待機者では、「特にない」が38.3%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」「葬儀に関すること」(ともに21.1%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(20.9%)が上位に挙げられている。

■終末期・死後の手続等で不安なこと（複数回答）

